



定数 k は $k > 1$ をみたすとする。 xy 平面上の点 $A(1, 0)$ を通り x 軸に垂直な直線の第 1 象限に含まれる部分を、2 点 X, Y が $AY = kAX$ をみたしながら動いている。原点 $O(0, 0)$ を中心とする半径 1 の円と線分 OX, OY が交わる点をそれぞれ P, Q とするとき、 OPQ の面積の最大値を k を用いて表せ。



$X(1, t)$ とおくと、 $AY = kAX$ より $Y(1, kt)$ とおける。

直線 $OX: y = tx \dots$, 直線 $OY: y = ktx$ である。

第 1 象限内の原点 $O(0, 0)$ を中心とする半径 1 の円は、

$$y = \sqrt{1-x^2} \dots \text{であるから、とを連立して}$$

P の座標を求めると $\sqrt{1-x^2} = tx$ かつ $x > 0$ から

$$x = \frac{1}{\sqrt{t^2+1}} \text{ となり、したがって } P\left(\frac{1}{\sqrt{t^2+1}}, \frac{t}{\sqrt{t^2+1}}\right)$$

である。同様にして $Q\left(\frac{1}{\sqrt{k^2t^2+1}}, \frac{kt}{\sqrt{k^2t^2+1}}\right)$ もわかる。

よって、 OPQ の面積を S とおくと、

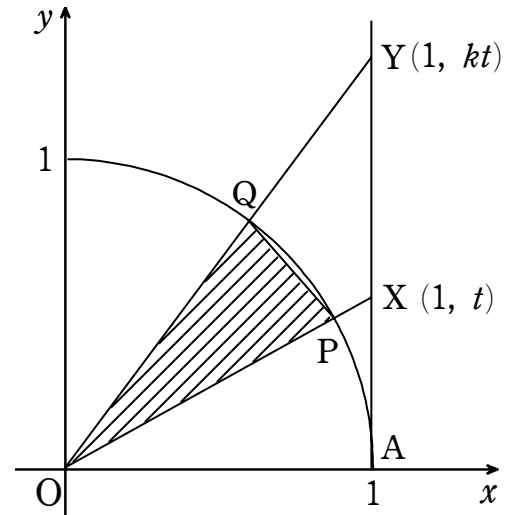
$$S = \frac{1}{2} \left| \frac{1}{\sqrt{t^2+1}} \cdot \frac{kt}{\sqrt{k^2t^2+1}} - \frac{t}{\sqrt{t^2+1}} \cdot \frac{1}{\sqrt{k^2t^2+1}} \right|$$

$$= \frac{1}{2} \cdot \frac{(k-1)t}{\sqrt{k^2t^4 + (k^2+1)t^2 + 1}} \quad (\because k > 1, t > 0)$$

$$= \frac{k-1}{2} \sqrt{\frac{t^2}{k^2t^4 + (k^2+1)t^2 + 1}}$$

$$= \frac{k-1}{2} \sqrt{\frac{1}{k^2t^2 + \frac{1}{t^2} + k^2 + 1}} \dots$$

となる。



ここで、 $f(t) = k^2 t^2 + \frac{1}{t^2} + k^2 + 1$ とおく。

相加平均・相乗平均の関係式より $f(t) \geq 2\sqrt{k^2 t^2 \cdot \frac{1}{t^2}} + k^2 + 1 = 2k + k^2 + 1 = (k+1)^2$

ただし、等号成立は $k^2 t^2 = \frac{1}{t^2}$ より $t = \frac{1}{\sqrt{k}}$ のとき。

$f(t)$ が最小になるとき、すなわち S は最大になる。

$$\text{よって } S = \frac{k-1}{2} \sqrt{\frac{1}{f(t)}} = \frac{k-1}{2} \sqrt{\frac{1}{(k+1)^2}} = \frac{k-1}{2(k+1)}$$

であるから、求める S の最大値は $\frac{k-1}{2(k+1)}$

[別解]

$\angle AOX = \alpha$, $\angle AOY = \beta$ とおく。

$k > 1$ より $AY = kAX > AX$ であり、 $0 < \alpha < \beta < \frac{\pi}{2}$ である。

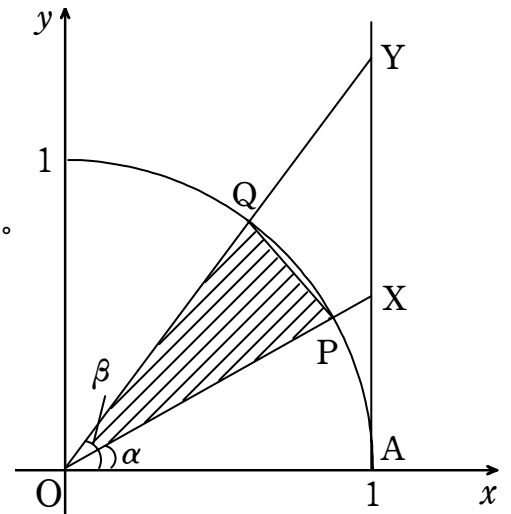
OPQ の面積を S とおくと、

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \cdot OP \cdot OQ \cdot \sin \angle POQ \\ &= \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 1 \cdot \sin(\beta - \alpha) \\ &= \frac{1}{2} \sin(\beta - \alpha) \dots \end{aligned}$$

$AX = OA \tan \angle AOX = \tan \alpha$, $AY = OA \tan \angle AOY = \tan \beta$ であるから、

$AY = kAX$ より $\tan \beta = k \tan \alpha$ となるので \tan の加法定理から

$$\begin{aligned} \tan(\beta - \alpha) &= \frac{\tan \beta - \tan \alpha}{1 + \tan \alpha \tan \beta} \\ &= \frac{k \tan \alpha - \tan \alpha}{1 + k \tan^2 \alpha} \\ &= \frac{(k-1) \tan \alpha}{1 + k \tan^2 \alpha} \\ &= \frac{(k-1)}{\frac{1}{\tan \alpha} + k \tan \alpha} \dots \text{となる。} \end{aligned}$$



$\tan \alpha > 0$, $k > 1$ であるから , 相加平均・相乗平均の関係式より

$$\frac{1}{\tan \alpha} + k \tan \alpha \geq 2\sqrt{\frac{1}{\tan \alpha} + k \tan \alpha} = 2\sqrt{k}$$

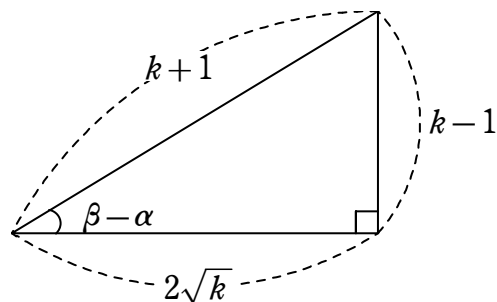
ただし , 等号成立は $\frac{1}{\tan \alpha} = k \tan \alpha$ すなわち $\tan \alpha = \frac{1}{\sqrt{k}}$ のとき。

よって , より $\tan(\beta - \alpha) = \frac{k-1}{2\sqrt{k}}$...

$0 < \beta - \alpha < \frac{\pi}{2}$ であり , $\tan(\beta - \alpha)$ と $\sin(\beta - \alpha)$ はともにこの範囲で単調増加である。

$\beta - \alpha$ が最大になるとき $\sin(\beta - \alpha)$ と $\tan(\beta - \alpha)$ はともに最大となるので , このとき面積 S も最大となる。

$\tan(\beta - \alpha) = \frac{k-1}{2\sqrt{k}}$ のとき $\sin(\beta - \alpha) = \frac{k-1}{k+1}$ である。



よって , S は $\tan \alpha = \frac{1}{\sqrt{k}}$ のとき最大値 $\frac{k-1}{2(k+1)}$ をとる。

(注) [別解]は最後まで角度を主体にして押し切っているが , $AX = t$ として t の関数にしてもよい。

そうすると最初の解答と後半はほぼ同じになる。